

## 1. 第3回十勝川千代田分流堰魚道検討委員会（発言要旨と対応策）

項 目	発言要旨	事務局等回答	対 応
ゲート操作方法	・洪水時の分流堰のゲート操作はどのようなになるのか。	・ゲートを操作するのは400m <sup>3</sup> /s以上の洪水発生時で年4回程度生起する。 ・洪水ピーク前には徐々に3門のゲートを倒し、洪水ピーク後にはゲートを起こすことを基本とする。	・現在、操作ルールを検討中である。
対象魚種の再整理	・9月から12月には新水路にサケを遡上させないという断定的な表現は避けて欲しい。	・対象魚としてはサケを入れているが、堰完成時点においては新水路魚道に上らせる予定はない。	・「当面は迷入させない」という表現に修正する。
堰横魚道タイプ・構造について	・信濃川大河津分水路魚道のデータを提示して欲しい。	・事務所に問い合わせ入手可能であれば次回委員会までに配布したい。	・委員に配布済みである。
	・時期的な流量を提示して欲しい。	・次回委員会で提示する。	・資料4.参照(p9)
高水敷魚道について	・鳥対策が必要である。	・次回委員会で提示する。	・資料5.2参照(p16)
	・最下流部は流速が速く小型魚の遡上にはきついのではないか。	・次回委員会で提示する。	・資料5.1参照(p13)
モニタリング計画	・調査対象とした個々の魚を踏まえて調査をすること。 ・春の調査ではワカサギ、イトヨの生息範囲を把握するための調査範囲が必要である。	・H14年に魚類調査を予定している。 ・調査範囲は千代田堰堤から下流1km程度の区間である。	・春の調査結果及び今年度の調査計画を資料3.(p7)に示す。
その他	・魚道観察窓は設置するのか	・今後検討していく予定である。	・資料6.参照(p22)